

年間テーマ：旅する神の民とミサ～喜びと希望を共に！

# ことばの典礼

---

～神のことばの食卓～

聖イグナチオ教会  
主任司祭 高祖 敏明

# 本日の話の内容構成

---

はじめに

I。ミサにおける「神の民」の任務

II。「ことばの典礼」の全体的特徴

1. 「ことばの典礼」と「ことばの祭儀」との違い

2. ミサの中の「ことばの典礼」の位置と構造

III。「ことばの典礼」の8構成部分の意味と役割

IV。もう一つの食卓＝「感謝の典礼」へ →本セミナーの第4回へ続く

## はじめに

---

ミサは開祭、ことばの典礼、感謝の典礼、閉祭の四つの部分から成る。今回(第3回)は、前回の「開祭」に続く「ことばの典礼」に焦点を当てる。

「ミサはある意味で二つの部分から成り立っている。ことばの典礼と感謝の典礼である。この二つは、一つの礼拝行為を構成するほど、

互いに緊密に結ばれている」（「ローマ・ミサ典礼書の総則」28）。

だから、この二つの典礼を一体的に捉えることが大切となる。今回は

「神のことばの食卓」という典礼の構造や各部分の役割などをともに考え、「キリストのからだの食卓」に深い理解と信仰をもって与り、

一緒に祝うことが出来る、その一助にしたい。

# I。ミサにおける「神の民」の任務(総則95~97)

ミサ祭儀では、信者は「聖なる民、神のものとされた民、王の祭司を形成する。」それは、「**神に感謝を捧げ**、また司祭の手を通してばかりではなく、**司祭とともに汚れのないいけにえを捧げ**、そして**自分自身を捧げる**ことを学ぶため。」

信者は、「**深い宗教的感覚によって**、また同じ祭儀に参加している**兄弟姉妹に対する愛によって**」、そうした務めを表すように心がけなければならない。

この観点から、「天にただひとりの御父がおられること、それゆえに、皆が互いに兄弟姉妹であることを念頭において、孤立や差別を印象づけることはいっさい避けなければならない。」

信者が「**神のことばを聴くこと**、**祈願や歌を分担すること**、とくに**いけにえをともに捧げること**、そして**主の食卓にともにあずかること**によって、一つのからだが生かされる。この一致は、信者がそろってする動作や姿勢によって、美しく表現される。」

祭儀において何らかの特別な奉仕職や任務を依頼された場合、喜んで果たすように。

## II。「ことばの典礼」の全体的特徴（1）

---

### 1. 「ことばの典礼」と「ことばの祭儀」との違い

「ことばの祭儀」とは**ミサの中で行われない聖書の典礼**を指し、ミサ前半の「ことばの典礼」とは区別される。(この項、石井祥裕「ことばの祭儀」『新カト大事典』)

「ことばの祭儀」とは**キリスト者の集会礼拝の一形式**で、聖書朗読によって神のことばをともに聴き、それに答えて賛美や感謝、祈りを捧げるもの。神のことばを聴きながら神の救いの歴史を想起し記念して賛美と感謝をささげ、世界と人々の救いを願って祈るという行為は、**キリスト者の在り方そのものに由来し、根差している。**

司祭が減少傾向にある**今日**、「ことばの祭儀」は**信徒が司式するキリスト者の基本的な集会礼拝**として重要な意味をもっている。

## II。「ことばの典礼」の全体的特徴（1）

---

### 2. ミサの中の「ことばの典礼」の位置と構造

#### (1) ミサは二つの食卓が中心

「ことばの典礼」は朗読台が儀式の要 → 「神のことばの食卓」

「感謝の典礼」は祭壇＝食卓を中心とし、最後の晚餐を記念して行う祭儀

→ 「キリストのからだの食卓」

#### (2) 「ことばの典礼」の「開祭」とのつながり

## II。「ことばの典礼」の全体的特徴（1）

---

### 2. ミサの中の「ことばの典礼」の位置と構造

(1) ミサは二つの食卓が中心

(2) 「ことばの典礼」の「開祭」とのつながり（総則46）

「開祭」【①入祭、②あいさつ、③回心の祈り、④いつくしみの賛歌(キリエ)、⑤栄光の賛歌(グロリア)、⑥集会祈願】はミサの開始、導入、準備の性格をもつ。

これらの目的は、一つに集まった信者が一致することと、神のことばを正しく聴き、感謝の祭儀をふさわしく行うよう自らを整えることにある。

(3) 「ことばの典礼」の形式的構造

## II。「ことばの典礼」の全体的特徴（1）

---

### 2. ミサの中の「ことばの典礼」の位置と構造

#### (3) 「ことばの典礼」の形式的構造

1) 主日ミサの場合 次の8要素からなり、この順序で営まれる。

- ①第1朗読      ②答唱詩編      ③第2朗読      ④アレルヤ唱（ないし詠唱）
- ⑤福音朗読      ⑥説教      ⑦信仰宣言      ⑧共同祈願（信者の祈り）

#### 2) 週日（祝祭日以外）ミサの場合

- ①第1朗読    ②答唱詩編    ③アレルヤ唱(ないし詠唱)    ④福音朗読    ⑤説教(自由)

(4) 「ことばの典礼」の内的質的構造＝主日ミサの場合

## II。「ことばの典礼」の全体的特徴（1）

---

### 2. ミサの中の「ことばの典礼」の位置と構造

#### (4) 「ことばの典礼」の内的質的構造＝主日ミサの場合（総則55）

主要部分は「聖書から採られた朗読」と「朗読の間にある歌」。

続く説教、信仰宣言、共同祈願(信者の祈り)は、「ことばの典礼を展開し、結ぶもの。

説教によって解説される聖書朗読の中で、神はその民に語られ、あがないと

救いの神秘を説き明かし、霊的な糧をお与えになる。」

「キリスト自身が、自らのことばによって信者の間に現存される。この神のことばを、

会衆は沈黙と歌によって自分のものとし、信仰宣言によって自らに結び付ける。」

「会衆は神のことばに養われ、共同祈願で教会全体の必要と全世界の救いのために祈る」

## II。「ことばの典礼」の全体的特徴（2）

---

### 2. ミサの中の「ことばの典礼」の位置と構造

**(5)沈黙の時間の重要性** →ことばの典礼は沈黙を助けるように行う

「内省を妨げるようなあらゆる形の性急さを一切避け...、集まった会衆に合わせて短い沈黙のひと時を取ることも相応しい。それによって聖霊に促され、神のことばを心で受け止め、祈りを通して応答を用意することができる。」

「沈黙のひとときは、例えば、**ことばの典礼そのものが始まる前、第一朗読と第二朗読の後、そして説教が終わってから適宜取ることができる**」(総則56)。

## II。「ことばの典礼」の全体的特徴（2）

---

### 2. ミサの中の「ことばの典礼」の位置と構造

#### (6) 聖書朗読の意義（総則57）

「聖書朗読において、神のことばの食卓が信者のために備えられ、聖書の宝庫が開かれる。そのため、旧約と新約ならびに救いの歴史が一つであることを明らかにする聖書朗読の配分が保たれるようにするのが望ましい。...

神のことばを含んでいる朗読と答唱詩編を聖書以外の他の文言に代えるべきではない」。

## II。「ことばの典礼」の全体的特徴（2）

---

### 2. ミサの中の「ことばの典礼」の位置と構造

#### (7) 聖書朗読の担当者（総則59、99）

「会衆の参加するミサの祭儀では、朗読は常に朗読台から行われる」＝朗読台が儀式の要。

伝統によれば、朗読は司式者ではなく、「朗読奉仕者（朗読者）によって行われる」

「福音は助祭によって、...助祭が不在の場合は他の司祭によって告げられる。

助祭や他の司祭が不在の場合は、司式司祭自らが福音を朗読する。ふさわしい

他の朗読奉仕者（朗読者）も不在の場合は、司式司祭が他の朗読も行う。」

「朗読奉仕者は、福音を除き、聖書を朗読するために選任される。また共同祈願の意向を述べ、詩編唱者が不在の場合、朗読の間の詩編も唱えることができる。」

## II。「ことばの典礼」の全体的特徴（2）

---

### 2. ミサの中の「ことばの典礼」の位置と構造

**(8)朗読台**（総則309） ことばの奉仕者のみが朗読台に立つ

「神のことばはその尊厳のゆえに、教会堂の中にふさわしい場所、ことばの典礼の間、自然に信者の注意が向かう場所に設置する。

動かすことのできる簡易な書見台ではなく、固定された朗読台であること。

朗読台は各教会堂の構造に応じて、叙階された奉仕者と朗読奉仕者(朗読者)が信者からよく見え、ことばがよく聞き取れるように配慮する。

朗読台からのみ朗読が行われ、答唱詩編及び復活賛歌が唱えられる。説教を行い、共同祈願の意向を唱えることができる。

## II。「ことばの典礼」の全体的特徴（2）

---

### 2. ミサの中の「ことばの典礼」の位置と構造

#### (9) 聖書朗読（総則357、358）

**主日と祭日には3つの朗読**、すなわち預言書、使徒書、及び福音書...の朗読によって信徒は、神の偉大な計画に導かれて救いのわざが続いていることを学ぶ。

**祝日には2つの朗読**が割り当てられている。

**聖人の記念日**には、固有の朗読がないなら、通常、週日の朗読が読まれる。

**週日用の朗読聖書**には、1年の周期全体を通して各週のそれぞれの日のために、朗読が配分されている。

## II。「ことばの典礼」の全体的特徴（2）

---

### 2. ミサの中の「ことばの典礼」の位置と構造

Q:特別な集会のためのミサでは、朗読箇所は自由に選んでいいの？

Q:同じ朗読箇所に長い形と短い形がある場合、どちらを選ぶかは自由なの？

#### (10)聖書朗読後の応唱

朗読した人はそれぞれの朗読の後に応唱し、集まった会衆はそれに答えて、信仰と感謝の心をもって受け取った神のことばに誉れを帰する。

「神のみことば」 ⇔ 「神に感謝」      「主のみことば」 ⇔ 「キリストに賛美」

# III。「ことばの典礼」の8構成部分の意味と役割

---

## (1)第1朗読（総則128）

当日の**福音の内容に呼応する旧約聖書**が朗読される。ただし復活節は「使徒言行録」が読まれる。**朗読者は朗読台から読み**、会衆は座って聞く。

日本では、終わりに朗読奉仕者(朗読者)は手を合わせて「神のみことば」と呼びかけ、一同は「神に感謝」と答える。

日本では、朗読の後、一同は**しばらく沈黙のうちに神のことばを味わう**。

# III。「ことばの典礼」の8構成部分の意味と役割

---

## (2) 答唱詩編 (総則61)

第1朗読の内容を**味わい黙想しながら**、その内容にふさわしい詩編の言葉を歌ったり、唱えたりして、**神からの呼び掛けに応える**もの。

ことばの典礼に欠かすことのできない部分であり、典礼の面からも司牧の面からも重要な意義を持つ。答唱詩編が**神のことばの黙想を促す**からである。

答唱詩編は個々の朗読に答えるべき...通常、朗読聖書から採られねばならない。

答唱詩編は、少なくとも会衆の答唱に関しては**歌われることが望ましい**。詩編唱者もしくは詩編の歌唱者は、朗読台あるいは他のふさわしい場所で詩編の先唱句を唱え、会衆一同は座ってそれを聴く。...会衆は通常、**答唱によって参加**する。

# III。「ことばの典礼」の8構成部分の意味と役割

---

## (3)第2朗読（総則130）

使徒書より、毎週継続して朗読される。会衆は座って聞く。

第2朗読がある場合、朗読奉仕者（朗読者）は朗読台から朗読を行う。一同はそれを聴く。

終わりに朗読奉仕者（朗読者）は手を合わせて「神のみことば」と呼びかけ、一同は「神に感謝」と答える。

それから日本では、一同はしばらく沈黙のうちに神のことばを味わう。

# III。「ことばの典礼」の8構成部分の意味と役割

(4)アレルヤ唱（ないし詠唱）＝福音朗読前の応唱（総則62, 63, 64）

福音の前の朗読（第1朗読ないし第2朗読）の後には、**典礼季節の定めに従って**、  
典礼法規によって定められたアレルヤ唱あるいは他の歌が歌われる。

この応唱は、それ自体独立した儀式・行為であり、これによって、信者の集会は**福音朗読で彼らに語りかける主を迎えて挨拶し、自らの信仰を歌により表明する**。

アレルヤ唱は**四旬節以外のすべての季節**に歌われる。

**四旬節**には、アレルヤ唱の代わりに朗読聖書に示された福音前の唱句を歌う。

**続唱は、主の復活と聖霊降臨の日**以外は任意であり、アレルヤ唱の前に歌う。

Q：アレルヤの本来の意味は何？どこからくる言葉なの？

→ハレルヤ＝「ヤハ(ウエ)を讃えよ」＝ヤハウエ賛美を呼びかける時の定型句

# III。「ことばの典礼」の8構成部分の意味と役割

---

## (5)福音朗読 (総則60、134)

福音の朗読は**ことばの典礼の頂点**。4福音書のいずれかが継続して朗読される。朗読者は助祭か司祭が務め、**朗読台から**読む。

福音を告げ知らせる奉仕者は、祝福・祈りによって自らを準備する。信者は、**キリストが現存され、彼らに語っておられること**を応唱によって認め、公言し、朗読を立てて(=福音への尊敬を表す姿勢)聴く。

司祭は朗読台で福音書を開き、手を合わせ、「**主は皆さんとともに**」と唱える。会衆は「**またあなたとともに**」と答える。それから「**〇〇〇による福音**」と唱え、**親指で**福音書に**十字架のしるし**をする。そして自分の額、口、胸に十字架のしるしをし、他のすべての者も同じようにする。会衆は「**主に栄光**」と応唱する。

# III。「ことばの典礼」の8構成部分の意味と役割

---

## (5)福音朗読（続き）（総則134）

司祭は福音を告げ知らせ、日本では朗読後、福音書を両手で掲げて表敬して、「**主のみことば**」と呼びかけ、一同は「**キリストに賛美**」と答える。その後司祭は「**福音のことばによってわたしたちが罪から清められますように**」と静かに唱える。

Q：主日と祭日の福音朗読は、本当に**A（マタイ中心） B（マルコ中心） C（ルカ中心）の3年周期で回っているの？**

**毎年同じ朗読箇所**に固定されている日はないの？ →資料参照

Q：週日の福音朗読は、**なぜ2年周期なの？**

# III。「ことばの典礼」の8構成部分の意味と役割

---

## (6)説教 (総則136, 65, 66)

説教は**典礼の一部**であり大いに勧められる。**キリスト者の生活の糧**として必要。

聖書の本文に基づいて、**信仰の秘儀とキリスト教生活の諸原則を説明する**」(『典礼憲章』52)。その日に朗読される聖書のことばを通して神が私たちに何を語りかけており、それがどのような意味を持つのかを説明する。

説教は**通常は司式司祭が席または朗読台から**行い、会衆は座って聞く。祝われている神秘や聞き手の特別な必要を考慮に入れて行われる。

**主日と守るべき祝日には**、会衆が集まって祝われるすべてのミサにおいて、**重大な理由がないかぎり説教を省くことはできない。**

Q：ミサの説教は**信徒が行ってもいいの？**

# III。「ことばの典礼」の8構成部分の意味と役割

---

## (7) 信仰宣言 (総則67、68、137)

信仰宣言は、**集まった全会衆が**、聖書から採られた朗読の中で告げられ、説教を通して解説された**神のことばに応答**することを目指している。

信仰の規範を宣言することによって、感謝の典礼の中で**信仰の偉大な諸神秘が**祝われる前にそれらを思い起こし、**表明**することを目指している。

信条は、**主日と祭日に**、司祭が会衆とともに歌うか唱えるべきものである。

司祭と会衆はともに立ち、一同で信条を歌うか唱える。日本では「**聖霊によって、おとめマリアより...**」(ニケア・コンスタンチノーブル信条) または「**主は聖霊によってやどり...**」(使徒信条)のことばで、一同は**手を合わせて深く礼**をする。

# III。「ことばの典礼」の8構成部分の意味と役割

---

**(8)共同祈願** = 信者の祈り (総則138、69、70、71)

**司祭**は席で立ち、手を合わせ、短い勧めのことばによって**信者を共同祈願に招く**。続いて、**先唱者か朗読奉仕者(朗読者)か他の者**が、朗読台もしくは他のふさわしい場所から会衆に向かって**意向を述べる**。

意向は**通常、次の順序**で行う。a)教会の必要のため、b)国政にたずさわる人々と全世界の救いのため、c)あらゆるたぐいの困難に悩む人々のため、d)現地の共同体のため。ただし、**堅信、結婚、葬儀などの特別な祭儀**においては、それぞれの**状況を一層考慮**して意向の順序を決めることができる。

会衆は起立して、それぞれの意向の後に唱える**共同の嘆願**によって、あるいは**沈黙のうちに祈る**ことによって、**自身の祈り**であることを表現する。

## IV。もう一つの食卓＝「感謝の典礼」へ

---

⇒本セミナーの**第4回へ続く**

時間があれば、質疑応答を行う